



# はっしん！ 新青森



青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



2022年7月20日(水)  
第33号 [FREE]

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅

青森大学社会連携センター

## 新青森駅 第6代

# 澤村駅長が着任

## 「地域の宝を磨き上げたい」

新青森駅に7月1日、澤村郁子駅長(49)が着任しました。前任の工藤富士雄駅長からバトンを受け継ぎ、第6代駅長として東北新幹線・北海道新幹線のターミナルの指揮を執ります。同駅では初の女性駅長です。

澤村駅長は若手県二戸市出身。JR 東日本に入社後、主に旅行商品の造成や観光分野の業務に携わってきました。仙台、東京、盛岡での勤務を経て、2019年8月から2022年6月まで、故郷・二戸駅の駅長を務め、駅長としては新青森駅が2つ目の勤務地となります。

小さなころは「いくべえ」というニックネームで呼ばれたことがあったといい、青森県の観光マスコット

キャラクター「いくべえ」に親近感を抱いたそうです。「今年は鉄道開業150周年&新幹線YEAR2022です。さらに、7月に北東北三県大型観光キャンペーンが始まり、今年は3年ぶりに青森ねぶた祭も開催されます。安全・安定輸送に努めながら、三内丸山遺跡、温泉といった地域の宝を磨き、仙台や盛岡、東京とのきずなも活用して、社員と一緒に盛り上げていきたい」

毎年続けている書き初めで、今年は座右の銘として「変わる勇氣、変えるチカラ」を書いたといいます。「近年、急激な環境の変化が人々を巻き込んでいます。新たな生活様式を取り入れながら、私自身も新しい環境

で輝いていきたい」ときっぱり。

着任直後、大型観光キャンペーンのオープニング・セレモニーで青森県立青森西高等学校「おもてなし隊」の元気に圧倒されたとのこと。「みんなで笑顔になれるよう、地域の皆さまとともに地域を盛り立てていければ」と話していました。



## 青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく③③

# 青森駅・新青森駅で本格活動再開

## 北東北三県大型観光 キャンペーン開幕

青森県立青森西高校「青西おもてなし隊」の生徒たちが7月2日、新青森駅で開かれた「北東北三県大型観光キャンペーン」のオープニング・セレモニーで記念品の配布を行いました。また、翌3日には青森ねぶた祭の「跳ね人」姿で、青森駅を出発する記念列車の見送りや出迎えに活躍しました=写真中央。コロナ禍による長い中断を挟み、現在の在校生にとっては初めての本格的な活動とあって、参加した生徒たちは大きな手応えを感じた様子でした。

オープニング・セレモニーには三村申吾青森県知事、奈良秀則・青森県観光連盟理事長、新青森駅の澤村郁子駅長らが参加しました。3人の生徒たちが「おもてなし隊」のはんてんに身を包み、3本の新幹線で到着した利用者らに記念品を配りました。

3日の青森駅の活動には7人が参加、同校の家庭ク

ラブが2年前に考案・作成した「ワンタッチハネト浴衣」に身を包み、JR ねぶた囃子会の演奏に合わせて、「跳ね人」の跳躍を披露しました。最初は気後れた様子でしたが、生徒たちはすぐに雰囲気慣れ、特急「はつかり」の国鉄色塗装を再現した特別列車=写真右=の出発を元気に見送りました。さらに、同じくかつて運転していた急行「津軽」をモチーフにした列車の



到着を出迎えました。観光客らは盛んに、その姿を画像を収めていました。

1年生の男子生徒は「これから夏祭りが始まりです。多くの観光客が来県することを楽しみに、今後もこのような活動に参加したい」と語りました。とても緊張していたという1年生の女子生徒は「おもてなし隊に入って初めての大きな活動。観光客の皆さんやJRの方々も喜んでくれて、うれしかった」と振り返りました。

3年生の女子生徒は「2、3年ぶりのハネトで大変楽しかった。JR ねぶた囃子会の囃子を隣で聞くことができ、たくさんの方に喜んでもらえたり、手を振ってもらったり、最高の1日にと感動をかみしめていました。



# 蟹田～龍飛崎 500円で移動

## わんタク デマンド型乗合タクシー、9月まで運行

JR 東日本盛岡支社など4社が9月末まで、津軽半島の今別町の一部と外ヶ浜町の蟹田・大平地区、三厩地区で、予約制の乗合タクシー「わんタク」を運行しています。Web または



電話で予約すれば、1人1回500円(各種割引も設定。特設サイトを参照)でJR 津軽線の蟹田駅から龍飛崎付近まで乗車でき、手軽さと安さが大きな魅力です。

「わんタク」は「わんど(=私たち)のタクシー」の略で、JR 東日本盛岡支社とJR 東日本スタートアップ株式会社、株式会社電腦交通、有限会社奥津軽観光が運行しています。日中の時間帯、30分間隔で予約でき、エリア内の指定した場所から世界遺産・大平山元遺跡、今別町中心部、さらに龍飛崎灯台や階段国道、青函トンネル記念館といったJR 津軽線一帯の観光スポットなど、好きな場所まで乗車できます。地元タクシー会社によると、通常のタクシー利用なら1万

円以上かかる場合もあるといい、格安の移動手段となります。

また、青森市の旅行会社「また旅くらぶ」は、この「わんタク」を利用した体験型のツアーを提供しています=写真。代表取締役の高木まゆみさんは「新しいスタイルの旅で、地域の魅力を再発見してほしい」と話しています。

なお、平日の夜間に蟹田駅と今別・三厩方面を結ぶデマンド型乗合タクシー「つがるん」も9月末まで運行中です。

★「わんタク」ニュースリリースはこちら

[https://www.jreast.co.jp/press/2022/morioka/20220602\\_mr11.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2022/morioka/20220602_mr11.pdf)

★「わんタク」「つがるん」特設サイト

<https://jreastup.co.jp/tsugaru2022/>

★また旅くらぶサイト

<https://matatabi-club.com/>





# 三内丸山遺跡 「さんまる世界遺産ウィーク」 登録1周年記念

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は2021年7月、世界遺産に登録されました。その1周年に当たり、17構成資産の中核である三内丸山遺跡で7月16日(土)から31日(日)まで、記念企画「さんまる世界遺産ウィーク」が開かれています。期間中の土・日・祝日は観覧料が無料になります(特別展は除く)。

7月16日に開幕した特別展「北海道・北東北のJOMON」は、世界遺産の構成資産をはじめとする北海道、青森、岩手、秋田各県の縄文遺跡の出土品約200点をそろえ、共通の特徴、特に生業やまつりについて分かりやすく紹介しています。重要文化財20点、道県指定文化財24点、市町指定文化財10点と貴重な出土品を多数、見ることができます。

観覧料は一般900円、高校・大学生は450円、中学生以下無料です。特別展観覧料金で遺跡を含む常設展も見ることができます。

7月23日(土)・24日(日)には、三内丸山縄文夏祭りが開かれます。

翌週の7月30日(土)には、世界遺産登録1周年記念青森フォーラムが開催されます。

午前の部は世界遺産登録1周年記念講座(さんまる縄文学講座併催)が開かれ、「世界遺産登録1周年記念～世界遺産登録をふりかえる～」と題して、岡田康博・三内丸山遺跡センター所長が講演します。

午後は、各構成資産の担当者による意見交換を行います。

観覧時間は、9月30日(金)まで、午前9時から午後6時まで延長されています。入館は閉館30分前までです。また、7月25日(月)は休館です。



## 青森県立美術館 今年も「ナイトミュージアム」

### コレクション展「サマータイム・サマータイム」 企画展「ミナ ペルホネン / 皆川明 つづく」

青森県立美術館で今年も「ナイトミュージアム」が始まりました。開館時間を午後8時まで延長、ゆったりとした時間が流れる夕暮れの館内で、いつもと違った表情を感じさせる展示物を見ることができます。実施日には学芸員が解説する館内鑑賞ツアー(限定10人・要予約)も行われます。

ナイトミュージアムでは、マルク・シャガールが描いたバレエ「アレコ」の舞台背景画を展示する「アレコホール」を無料開放、作品を解説する特別鑑賞プログラムが午後6時から6時15分まで投影されます。また、午後5時15分、午後7時からの2回、「ミュージアムコンサート」もアレコホールで開かれます(一部開催日を除く)。

有料エリアでは、「あおりり犬」のライトアップを楽しめるほか、常設展や開催中のコレクション展2022-2「サマータイム・サマータイム」と企画展「ミナペルホネン / 皆川明 つづく」を鑑賞できます(いずれも10月2日・日まで)。

7月9日の第1回ナイトミュージアムでは、親子連れなど多くの来場者が薄暮の雰囲気を楽しみながら、アレコ特別鑑賞プログラムや常設展の奈良美智作品、コレクション展の棟方志功作品を楽しんでいました。

コレクション展は、2021年に同館へ寄託された草間彌生の作品全51点をまとめて公開する「草間彌生のキセキ-Wコレクションによる」が目玉されます。また、ウルトラマンのデザインを手がけた成田亨の没後20年企画として、同館が所有するデザイン原画約70点を展示し、ヒット中の映画「シン・ウルトラマン」に登場する「カラータイマーのないウルトラマン」や怪獣・宇宙人の原型を見ることができます。

ナイトミュージアムは7月23日(土)、8月27日(土)、9月10日(土)・24日(土)に開催されます。なお、アレコホール以外の鑑賞はコレクション展や企画展の入場料が必要です。詳しくは同館ホームページへ。



**見学時間** 9:00～17:00(入場は閉館の30分前まで)  
(6月1日～9月30日は18:00まで)

**休館日** 毎月第4日曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日

**観覧料** 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
URL https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp

三内丸山遺跡センター

**縄文 ⇄ 芸術**  
三内丸山遺跡センター × 青森県立美術館

三内丸山遺跡センターでは、縄文時代の生活様式や文化を再現し、縄文時代の芸術や工芸品を展示しています。また、縄文時代の生活様式や文化を再現し、縄文時代の芸術や工芸品を展示しています。

**青森県立美術館**

**開館時間** 9:30～17:00(入場は16:30まで)

**休館日** 毎月第2、第4日曜日(祝日の場合は翌日)  
※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります。

**観覧料** 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)/小学生・中学生100円(80円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL https://www.aomori-museum.jp

新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
⇒ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約11分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,300円前後、徒歩約40分

**Facebook ページ**  
**Instagram アカウント**

<ネット情報>  
Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。  
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楡引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部  
楡引素夫 電話 017-738-2001 内線 731  
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

FB ページ Instagram 青森大学社会連携センター